「女子教育と女性の地位向上」に命をかけた熊本の女性たち

～竹崎順子・矢嶋楫子の生涯～

講師：齊藤輝代

竹崎順子（１８２５～１９０５）文政８年１０月２５日、矢嶋家３女として益城町杉堂に生まれる。

開新高等学校所蔵

玉名伊倉の竹崎律次郎に嫁ぐ。律次郎は事業失敗後、横井小楠の実学を学び、横島新地（玉名市）の開拓、肥後藩庁書記官として出仕。後に家塾「日新堂」を創設した。順子は夫を献身的に支えた。律次郎の死後明治２０（１８８７）年キリスト教徒となる。明治２２年「熊本女学校」の舎監となる。明治３０年校長となり、明治３８年８１歳で没するまで校長として多くの女性たちを世に送り出した。「校母」として尊敬さている。

矢嶋楫子（１８３３～１９２５）天保４年４月２４日、矢嶋家６女として益城町宮園に生まれる。

女子学院所蔵

益城町小谷の林七郎に嫁いだが、１０年後の明治元（１８６８）年離婚。明治５年、兄源助の看病のために上京し、「楫子」と改名。東京で小学校教員伝習所に学び、教師となる。米国宣教師ミセス・ツルーと出会い、明治１２年キリスト教徒となる。明治１９年「東京基督教婦人矯風会」初代会頭となり、「一夫一婦制」「禁酒運動」等に取り組む。明治２３年、東京の女子学院初代学院長となる。現在も名門校として有能な人材を輩出。同２６年、「日本基督教婦人矯風会」初代会頭となり「婦人参政権」「廃娼」運動等に尽力。大正１０年８８歳でワシントン平和会議に出席し米大統領に会う。大正１４（１９２５）年、９２歳で没するまで女性の地位向上のために働いた。従五位勲五等に叙される。

＊　　＊　　＊

講演内容

１、　矢嶋忠左衛門直明・鶴子夫婦と一男七女

２、　竹崎順子の生涯

・結婚と夫への献身

・熊本の女子教育への思い

・熊本女学校校長として

・卒業生への遺言

３、矢嶋楫子の生涯

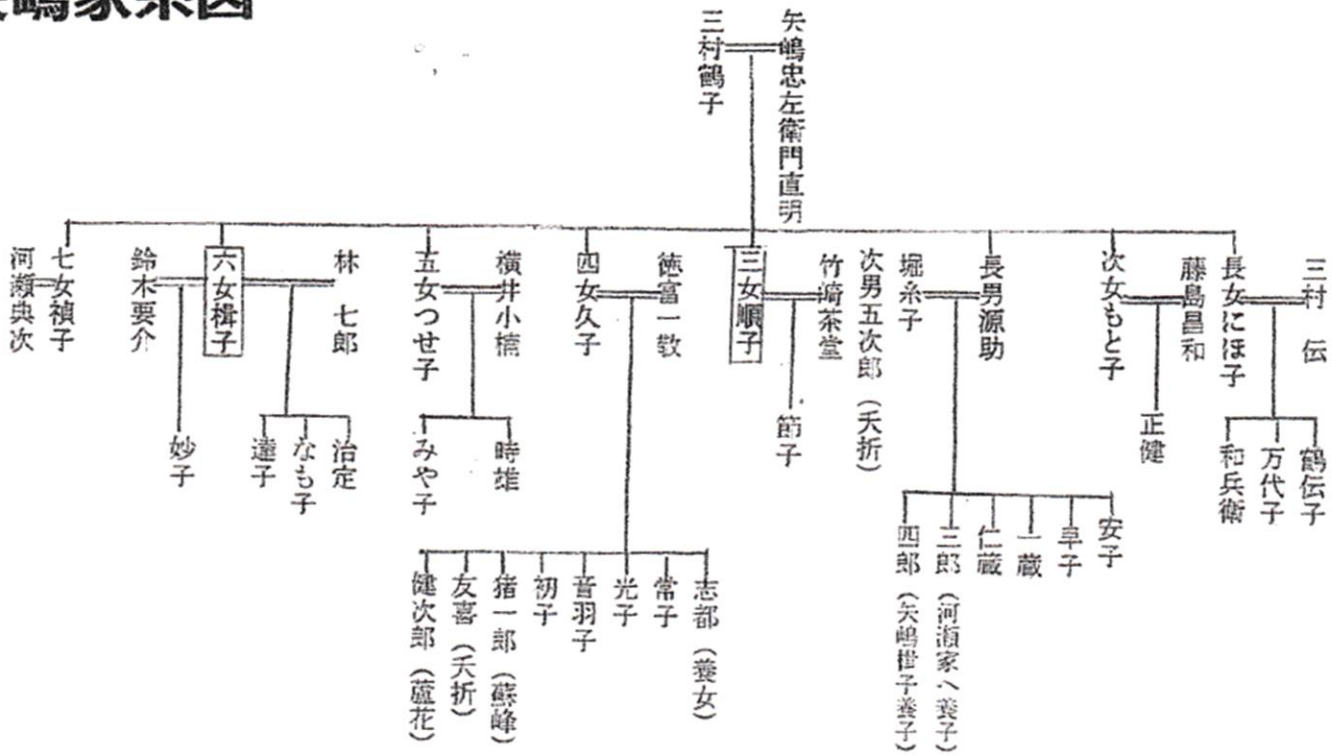
・勝子から楫子へ～自立への決意

・二足のわらじを履く～教師として基督教婦人矯風会会頭として

・世界平和への祈りの旅

・後輩に渡されたバトン

矢嶋家系図



矢嶋家と親族たち

明治 14［1881］年撮影、年齢は当時

矢嶋楫子（六女）48歳

小楠長女　みや子 20歳
（海老名弾正婦人）

横井つせ子（五女）51歳
（小楠婦人）

横井清子
（小楠の兄、時明婦人）

徳富久子（四女）53歳
（一敬婦人）

三村にほ子（長女）62歳
（伝之助婦人）

矢嶋直方（長男）60歳

河瀬貞子（七女）44歳
（典次婦人）

竹崎順子（三女）57歳
（茶堂婦人）

藤島もと子（二女）62歳
（又八婦人）

「四賢婦人記念館」Guide Book より